第 2015-23 号

恵みと真理のニュース

2015 年 6 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私の家庭の災を転じて福なりました
旦那が変わって新しい事業場が栄えるように 主が恵みを与えてくださいました

私は1986年に結婚して二人の子供を産んで一時期経済的には問題なく暮らしました。旦那は兄弟の中でも将来が期待され家の大人から注目を受けながら育った人でした。自分は何でも出来ると信念があり、不義を見ると我慢できないし、勝負欲や名誉欲も強かったです。問題は自分の意志が強くて他の人の話を聞くより話してお酒を飲むと酒乱もありました。旦那の性格と言行をいつまで我慢できませんでした。精神的に苦痛が大きかったです。ある日は旦那のお酒をやめさせるため薬を買いに長男を負んぶして薬局に行きました。どころが、私の話を聞いた薬剤師が旦那と共に来ないと薬を売らないと言われました。薬よりイエス様を信じて信仰生活をすることを私に勧めました。その方は私が薬局に行ったらいつも聖書を読んでいました。その気高い姿で美しく見えました。その印象が深くて私もいつかは教会に行くと思いました。

隣の家で住む首区域長に導かれ恵みと真理教会に来て決信しました。初めて礼拝を捧げた日には
よく覚えませんが、私が立って決信祈りをしたことと
その日賛美歌が、４０５章Amazing Grace
賛美を歌いながら止まらなく涙を流した事はわすられないです。1991年のことです。その後から平日礼拝も熱心に参席して当会長牧師の聖書講解の説教を聞いて神様の御言葉を習い理解して私の信仰が成長して1995年区域長の職分を受けました。

職場で超高速で昇進をした旦那が他の会社にスカウトになり転職しました。どころが、何年も過ぎなく会社が大きい大変になり、その会社を旦那が引き受けて直接に運営し始めました。旦那が専念して努力して会社が定着して行く頃、今回はIMF経済的危機で打撃を受けました。結局は事業場を整理して他のところに引越ししました。そこでも私達の教会があって私はすばらしい信仰を持っている区域長達と聖徒と共に礼拝を捧げ防止し伝道もして経済的に大変でしたが霊的には主に満たして信仰生活も成長しました。中小企業に就職した旦那がまた、3年になる前にそこを辞めて経済的にはもっと苦しくなりましたが、私は神様を仰ぎ祈りながら自信も失って落胆している旦那に励ましながら聖書の御言葉で勇気を与えました。

旦那は様々な問題を受けて自我が壊されて神様に謙遜になり最も神様を願い委ねる真実なクリスチャンの姿になりました。今までの苦難が有益になりました。これから、御言葉の恵みと聖霊の歴史で変化され以前の悪い習慣を捨て神様の中心、礼拝中心で暮らすようになりました。神様の恵みと摂理で新しく創業もはじめました。旦那は神様が下さり人生の最後の機会だと思って祈りながら誠実に働きました。すると、神様は事業場が盛んになるように祝福を与え経済的にも回復してくださいました。

私は苦難の中でも熱心に礼拝して仕えるように努力しました。様々な問題の中でも聖書学校と聖書大学に入って神様の御言葉を勉強しました。一日聖書を５章以上を読んで黙想し、一時間以上祈りをすることを目標をして実践しました。問題があったら断食をしながら祈りました。
当時牧師がヨブ記の説教をしてくださり希望をする忍耐をならい、万事が益となるように共に働いてくださる神様を信じ真実な信仰を持つようになりました。その信仰で全ての苦難を克服する事が出来ました。　しかし、神はわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。わたしを試してくだされば／金のようであることが分かるはずだ。(ヨブ記23：10)

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを 。(ローマ書5：3,4)ハレルヤ！

イエス様の愛をたくさん受け育って幼稚部教師として奉仕した長女が就職する過程で自分の思い通り出来なくて落胆した時もありましたが、その時に牧師が“太陽の下、与えられた空しい人生の日々／愛する妻と共に楽しく生きるがよい。それが、太陽の下で労苦するあなたへの／人生と労苦の報いなのだ。（9：11）御言葉と祈りで娘と私に慰めと勇気をくださいました。

娘は大企業のインターンに入り過程を終えて自分がやりたい分野で仕事をするようになりました。神様が下さった希望を心に抱いて誠実に勉強していて私は嬉しくて喜びます。このように娘を守って導いてくださる神様に感謝を捧げます。そして、神様は私にもっと主を愛し心と体を尽くして支える首区域長の職分もくださいました。任された人に求めるのは忠誠することしかないのを認識して熱心に主と教会の聖徒を支え、信じてない人々を主のところに導くことに最善を尽くします。頑張って職分を担え祈りをするとまだ救われない親戚も時になると神様の方法で救ってくださる事を信じます。私と家庭に多様な救いの恵みを与えて下さる神様に心深く感謝と賛美を捧げます。

［信仰コラム］ 最も貴重な財産

″このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。″(コリントの信徒への手紙一　13:13)

誰でも持とうと決心し、努力すれば、持てる無形財産に関して説明します。 それは信仰、希望、愛です。これは貨幣や丘、不動産などの有形財産とは次元が違う価値を持っています。 たとえ持った財物は大したものじゃなくても人生を楽しみながら元気に生きていく人には信仰、希望、愛が豊かです ところが信頼、願望、愛には逆説的な面もあってその何を信じて望みながら愛していたからに彼によって大幅に不幸になる場合もあります。 しかし、全く問題性がない完全な信頼、願望、愛があります。 イエス・キリストに関連された信頼、願望、愛です。 人生にとってこれよりもっと価値があり、有益なものはありません。

第一に、私たちが持つことができる貴重な財産は、イエス・キリストに対する信頼です。

信頼をなくしては社会生活、産業活動、その何もしません。 したがって、信じなければならないだろうと信じてはならないことを学んで分別することが必要です。 ところが、すべての人が必ず設けなければならない信頼があります。 イエス・キリストに対する信頼がそれです。 第一に、拘束の恵みを与えているイエス・キリストに対する信頼です。 この信頼がなくは罪許すことを受けることができず、義人としてもならない、永生を得ることも、救われこともできないです。 第二に、私たちと一緒にいるイエス・キリストに対する信頼です。 今も省令で私たちのうちいるイエス・キリストに対する信頼は私たちの信仰生活を大胆にし活気をしてください。 第三に、再び来るキリストに対する信頼です。

第二に、私たちが持つことができる貴重な財産は、イエス・キリストによりの望みです。

私たちが生きている現状がいくら息苦しくて大変で難しくても明日に対する希望を持つことができるなら、屈せずに待ちながら耐えていくことができます。 ところが世の中は私たちに完全無欠な願いを提供することができません。 神様がイエス・キリストもあいまって、我々にくれる望みは非常に多彩で豊かです。第一に、患難中にくれるの望みです。 この世の中で苦境と様々な苦難が近づいたとしても、神様がイエスキリストによって患難が福になって苦難が栄光になるようにしてくれます。 第二に、天国の望みです。 第三に、復活の望みです。 第四に、賞に対する願いです。 キリストの審判台の前に立つ時、それまで主のために献身して苦労したことについて賞を受けることになる望みです。

第三に、私たちが持つことができる貴重な財産はイエス・キリストに向けた愛です。

自分を本当に愛してくれる人がいて、自分が本当に愛して対象がいる人は本当に富饒て幸せな人です。人が経験しかねない愛の中で最も驚愕、偉大な愛はイエス・キリストの愛であり、人が持つことのできる愛の中で最も崇高な愛はイエス・キリストに向けた愛です。 私たちを生かすためにイエス・キリストが空補佐その栄光を捨ててこの地に来て十字架になくて血を流して死んでした。 このようなイエス・キリストの愛の物語を聞いて、これを受け入れた人の心霊の中に、その瞬間からイエス・キリストに向けた愛があふれかえるようになります。 その愛が深まると、二つの現象が生じます。 イエス・キリストが許さないことを遠くしてしまうことになる一方、彼がお望みの物を積極的に行うこととなります。 礼拝と聖徒仕える仕事と転倒、そしてひとつ賢明なことに熱心を出し、世の中が与えることができない喜びとやりがいを得ます。

イエス・キリストと関連のこうした信頼と希望と愛の価値はこの世の何も比べられません。 それゆえこれを所有していた人は真実に富饒な人で、幸せな人です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

なおざりに思ってはいけない救い

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人がこの世の中に生きるうちに得ることができるし また必ず得なければならないことがあります。それは神様が人生にくださる救いです。これよりもっと価値のあることはないです。この救いは無視するとかおろそかに思うことができないのです。 今日は私たちがどうして救いをなおざりに思ってはいけないかをよく見た後 引き継いで救いをなおざりに思わないように警戒してつつしまなければならないことに関してよく見ます。

先に、どうして私たちが救いをなおざりに思ってはいけないかをよく見ます。

第一、“このように大きい救い”であるからです。

本文に “このように大きい救い”と形容しました。 救いに含まれている内容が途方もないからです。 すべての人は神様の前で罪人です。 人間自らは罪を解決する方法が全然ないです。 しかし “救い” の内には罪の赦しを受けて義のあるようになることが含まれています。アダムの犯罪によってアダムの子孫であるすべての人はサタンのしもべになってサタンの子という身分に転落されました。 人間の努力ではこんな運命から脱するのが永遠にとてもないです。 ところが “救い” の内には神様の子になることが含まれています。 罪人は滅亡を受けるようになるのにそれは地獄の刑罰に処することになるのです。 人間は地獄の刑罰を免れる方法がないです。 ところが “救い” の内には天国で永遠に暮すことが含まれています。 そうするので “このように大きい救い” と言いました。 救いは決してなおざりに思うことができないのです。 救いを得ることができなければ事実上いつわりでむなしい人生です。

第二、途方もない犠牲を通じてくださった救いであるからです。

救いは神様が罪人を可愛想に思って “私があなたがたの罪を赦す。”というお話だけでくださるのではないです。 神様が天地をお言葉で創造したが、罪人を救いするためにはイエスキリストを世の中に送って私たち罪を代わりに担当して十字架に釘付けられてあがないの死を死なせました。 そうするので “このように大きい救い”と形容したのが適当です。 ヨハネによる福音書, 3 章 16 節に “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。” と言いました。 イエスキリストを信じる者にくださる救いは恵みの贈り物です。 しかし救いをくださるためにどんな犠牲があったのかを思えば驚きを禁ずることができないです。 そうするので “このように大きい救い”を決してなおざりに思うことができないです。

第三、救いをなおざりに思う人は神様の震怒と審判を受けて滅亡を受けるようになって二度と救い得る機会を得ることができないからです。

本文に記録されるのを “こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、”(ヘブル人への手紙, 2:3) しました。 イエスキリストのあがないを通じてくださったこのような救いを無視しておろそかに思えば神様の震怒と審判を避ける永遠にとてもないということを表現しています。 神様がくださる “このように大きい救い”をなおざりに思うことは神様を拒否して見下すことであるから神様の審判を避けることができないです。 こんな人は死とともに地獄の刑罰に処するようになって二度と救い得る機会を得ることができなくなります。 ここに関するお話が ルカによる福音書 16 章にあります。

“ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮していた。ところが、ラザロという貧乏人が全身でき物でおおわれて、この金持の玄関の前にすわり、その食卓から落ちるもので飢えをしのごうと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。この貧乏人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。 そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています』。アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しみもだえている。そればかりか、わたしたちとあなたがたとの間には大きな淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡ろうと思ってもできないし、そちらからわたしたちの方へ越えて来ることもできない』” と告げました。 “地獄と天国” の間を言います。 その間は渡ることができない大きい間隔が存在すると言いました。その間隔はその誰もその何でも解消させることができない永遠なのです。 死んだ後に処された都合と状態は永遠に替えることができないという事実を言ってくれます。 ラザロと金持ちに関する話はこの世の中に生きる間に “このように大きい救い”をなおざりに思う人は一番愚かでみじめな人という事実をこの上なく確証しています。 死んだ後には救いをもらう機会がないです

次は、救いをなおざりに思わないように警戒してつつしまなければならないことに関してよく見ます。

第一、本文に記録されるのを “わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう。” としました。

“おし流されてしまう”という原因がいろいろあります。 第一に誤れた教理を無分別に受け入れるからです。 安息日を守ると救い得るという教えることは真の救いの真理から “おし流されてしまう”ので誤れた教理です。 主イエスキリストの神様外に他の何を崇拝してもよいという教えることは真の救いから “おし流されてしまう”のです。 聖書は聖霊の感動を受けた人々が神様から受けて書いたことであるからエラーがないです。聖書の絶対的な権威を疑うとか不信すれば “このように大きい救い”を得ることができずに “おし流されてしまう”といいます。 二番目にあやまれた教理と教訓を受け入れて “おし流されてしまう” 人の心には貪欲があります。 真実のクリスチャンはお金や名声に対する欲求を満たすために福音を混雑させないです。

三番目で他の宗教を信奉する人々の機嫌を取るのが好きな者は和合と共存するのためと言いながら “おし流されてしまう”のです。 彼らはクリスチャンが他の宗教人を憎んで彼らと争おうと思うということで和合と共存をしようとします。 これは事実を歪曲するのです。 真実のクリスチャンは他の宗教人を憎まないです。むしろ彼らを愛します。 彼らにイエスキリスト外には救いの道がないのを知らせるのが全く永遠に一緒に恵まれた生を分ける共存の行為です。

第二、本文に記録されるのを “わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。”(ヘブル人への手紙, 2:3,4) しました。

救いの道は神様が決めました。 世の中の宗教は地域や時代や民衆の趣向そして要求によって総合したり変化をはかります。 しかし聖書に記録された神様の救いの真理は加減することができないです。 これを加減する行為に対しては厳重な警告が与えられています。 ヨハネの黙示録, 22 章 18 節、19 節に “この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。” としました。 イエスキリストによる “このように大きい救い”を得るようになれば価値観に著しく大きい変化が起きます。 世の中の地位、名誉、権勢、物質など皆が限定的で制限的で相対的な価値を持つだけが分かるようになります。 一方に神様がイエスキリストにあってくださる “このように大きい救い”はイエスキリストを信じる者に無制限的で永遠で絶対的な価値があるのが分かるようになります。 まことに富の人が誰ですか? “このように大きい救い”を得た人です。一番成功した人が誰ですか? “このように大きい救い”を得た人です。 本当に幸せな人が誰ですか? “このように大きい救い”を得た人です。

ヘブル人への手紙, 11 章の信仰の人々に対する記録に見れば彼らはイエスキリストによる “このように大きい救い”を何より大事にしたから他のものをすべて奪われて失くしても気に止めなかったです “女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。”(ヘブル人への手紙, 11:35～38)で記録されました。 皆さんはイエスキリストによる “このように大きい救い”を極めて貴重に思うによってすべての事件と事物に対する正しい価値観を持って生活するように願います。

皆さんは “このように大きい救い”の福音を信じることに “おし流されてしまう”のがないように切に慎みなさいと警戒したお話どおり一生の間気を付けながら生きて行ってください。 そんなにして “このように大きい救い”を永遠に享受するように願いします。